旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
２０２２年８月１４日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙　　祷		一　同
讃　　美※	聖歌５０５「恵みある主」	一　同
主の祈り※	（聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください）	
讃　　美	聖歌423「罪おもいださする」	一　同
聖書朗読	Ⅱテサロニケ1:7-12	
奨　　励	第二テサロニケ書の福音(第2回)	牧　師
主　　題	**「主よ、いつまでなのですか？」**	
讃　　美	聖歌279「世にあるかぎり」	一　同
献　　金	献金と感謝の祈り	
聖　　餐		
頌　　栄※	聖歌376「父、御子、御霊の」	一　同
祝　　祷※		牧　師
来週の箇所	**エゼキエル書第１章**	

※印のところでは御起立下さい。

☆　はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申しあげます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
☆　私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
☆　献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです（２ｺﾘﾝﾄ9:7）。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
☆　キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
☆　第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
☆　二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会　ニュース

《今週の歩み》
８/14(日)聖日礼拝
/15(月)13:30東北説教塾
/16(火)
/17(水)
/18(木)10:00聖研
/19(金)
/20(土)13-16子供ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ

《祈りの課題》
①コロナ禍の速やかな終息のために
②礼拝に来れなかった人々のために
③教会学校の子供たちが救われますように

良書ハイライト

「人間は全人的に痛む」
柏木哲夫著「死を学ぶ」（いのちのことば社）

人間は全人的に痛む。身体的、精神的、社会的、霊的な痛みを総合的にケアしなければならない。体の痛みは、心の痛みと密接に関係していることが多い。人との交わりが絶たれるとき、痛みは増し、人との交わりが回復するとき、痛みは軽くなる。鎮痛剤を注射しても止まらない痛みが、患者の言葉に十分時間をかけて聴き入ることによって軽減することがある。薬を注射するよりも、時間を注射することの大切さを教えられる。痛んでいる部分に手をあてて、ゆっくりとなでるだけで痛みが消える場合がある。まさに「手当」が大切なのである。

痛みのメカニズムは複雑である。痛みの原因をただ身体的にのみ見ようとすると必ず痛みのコントロールに失敗する。医療スタッフは、病気をみるのではなくて、病人をみなければならない。体の痛みだけをみるのではなくて、心の痛みや社会的な痛み、さらに霊的な痛みにも目を向ける必要がある。

ホスピスは死をタブー視せず、患者と家族の希望に沿って「その人らしい生」を全うするための援助をすることを目標とする。そこでは痛みなどの症状のコントロールを優先させ、副作用を伴う抗がん剤などを積極的に使う。単なる延命のための治療は中心的な仕事ではない。

ホスピスが最も大切に考えるのは生命の質である。たとえば痛みが強い場合、患者の心は痛みとたたかうことだけで占められ、他のことは考えられなくなる。鎮痛剤を懇願せざるを得ないような状態になると、その人の個人としての尊厳は著しく低下する。すなわち、生命の質の低下をきたす。痛みを徹底的にコントロールすることによってこそ、はじめてその人らしさを保つことができるのである。

末期患者はさまざまな身体的な問題と共に、精神的には不安、恐れ、孤独感を持つ。身体症状のコントロールに対して我々は技術を提供できる。しかし、精神的なサポートに関しては医学技術は役に立たない。精神的支えは人と人との交わりによってしか達成されない。提供できるのは技術ではなくて、人である。